



# ゆめ通信

## 2023.3.1. No.126

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10  
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

## 第23期豚事協セミナー開催

2023年2月8日（水）に第23期豚事協セミナーが、大手町サンケイプラザにて開催されました。豚熱や餌高をテーマに養豚業界が抱える難題点をどう乗り越えるのかをテーマに行いました。参加者は会場の定員いっぱいの212名と多くの皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございました。

13時より山本副理事長の司会で開始され、松村理事長の開会のあいさつでは、松村理事長は豚熱が拡大しバイオセキュリティの強化が求められ、飼料高や電気代資材費高騰による経費が大きく上昇する厳しい時代の中でも、豚事協がすすめてきたTopigs Norsvinとメンデルでの種豚選定や指定配合飼料ゆめシリーズを利用、ベンチマーキングで数値を管理してきた農場は利益を出していることを紹介されました。厳しい時代にも対応できる継続可能な経営を選択できることとなるか今回のセミナーで大いに学び各自参考にしてほしいと結び、日頃の組合の利用と支援に感謝を評してあつさつが締めくくられました。

講演はあかばね動物クリニック取締役・獣医師の伊藤貢先生より「豚熱を経験して甦った地域の養豚の現状」という題名で開始されました。

説明は3部にわかれ、長年豚熱問題に関わってこられた知見をもとに1部「これから変わる豚熱ワクチン接種について」として4月1日より変更が予定されている飼養衛生管理者による農場での豚熱ワクチン接種についての詳細が丁寧に説明されました。第2部は「伝染病により国の産業が変わった」として海外での主にアフリカ豚熱（ASF）がどのように養豚産業に影響を与えてきたかを説明され、特に近年日本での輸入量が増大しているスペインが30年以

上かけてASFの清浄国となった経緯を紹介されました。

第3部「豚熱を経験して変わる養豚場」として実際に管理獣医師として指導されている各地の実例をもとに感染した農場、感染しなかった農場の違いを指摘されました。「一年365日間すべての時間、すべての従業員が、すべての箇所で漏れなくバイオセキュリティを徹底できること」が効果をもたらすと、従業員教育の徹底によるソフトの面と同時に地理的条件に合わせた防衛装置によるハードの面の両面が必要と強調されました。最後に愛知県田原市の実際に発生した豚熱の経緯にふれ、実際の状況を体験された株式会社九郎兵衛の高橋将司氏に講演を繋げられました。

株式会社九郎兵衛の高橋将司氏は「豚熱を経験して甦った九郎兵衛の現状」と題して講演されました。2019年に設備の老朽化による豚舎の建て替えを開始した矢先に豚熱が愛知県野田市の野田南部養豚団地



(有)あかばね動物クリニック取締役・獣医師 伊藤貢先生

2023年4月1日から

## 農場側で接種出来るようになります

●農場で接種するには要件を満たす必要があります。

飼養衛生  
管理者の  
登録

研修会の  
受講

認定農場  
になる

ワクチン  
の使用許  
可

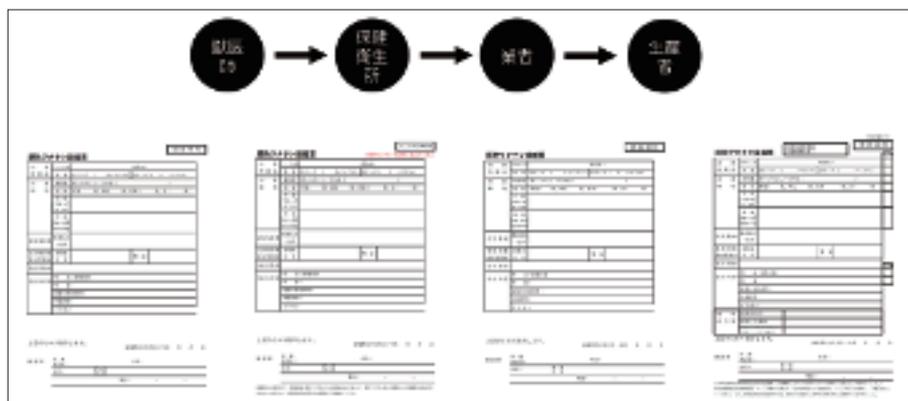
許可は知事

接種できる人は、防従員・知事認定獣医師・飼養衛生管理者

飼養衛生管理者

防従員と知養衛生管理者

知事認定獣医師と飼養衛生管理者



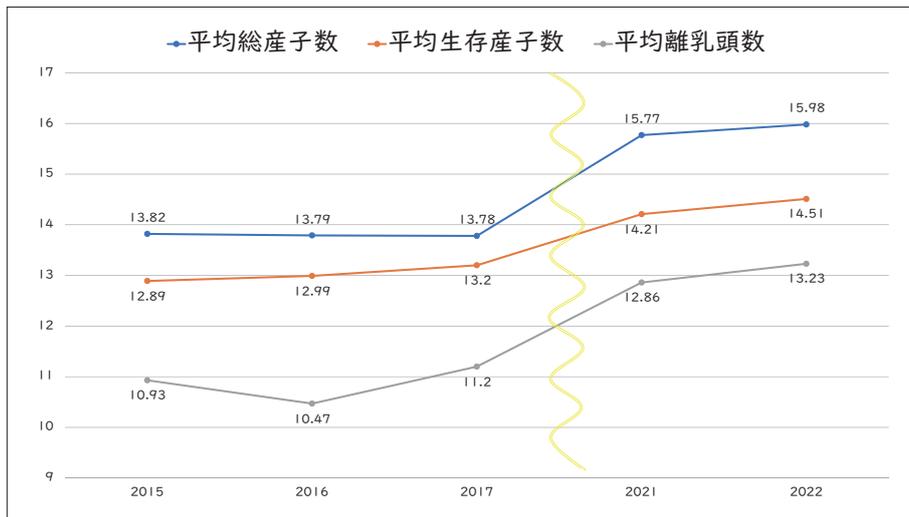
内で発生を経験されました。団地内8農場のうち2農場が感染し、あまりに近い距離に位置するために団地全農場の全頭殺処分が決定されました。その悲痛な決断に高橋氏は「正直な気持ちとして陰性なの

にどうして」という無念を吐露されてました。殺処分の過程の写真が公開され、石灰で真っ白になった農場の周囲や大勢の処分を担当する方々の姿、夜を徹して10日間にわたって行われた様子を苦しい心情を涙ながらに語られました。

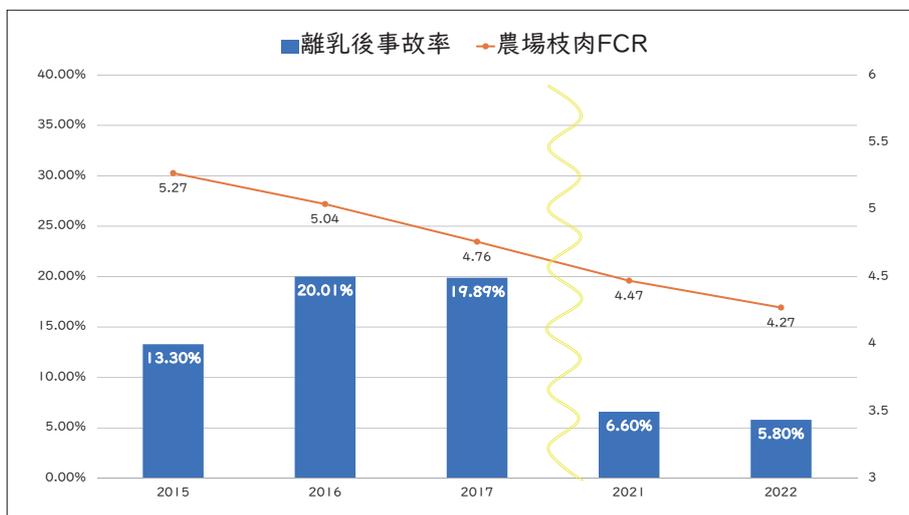


(株)九郎兵衛 高橋将司氏

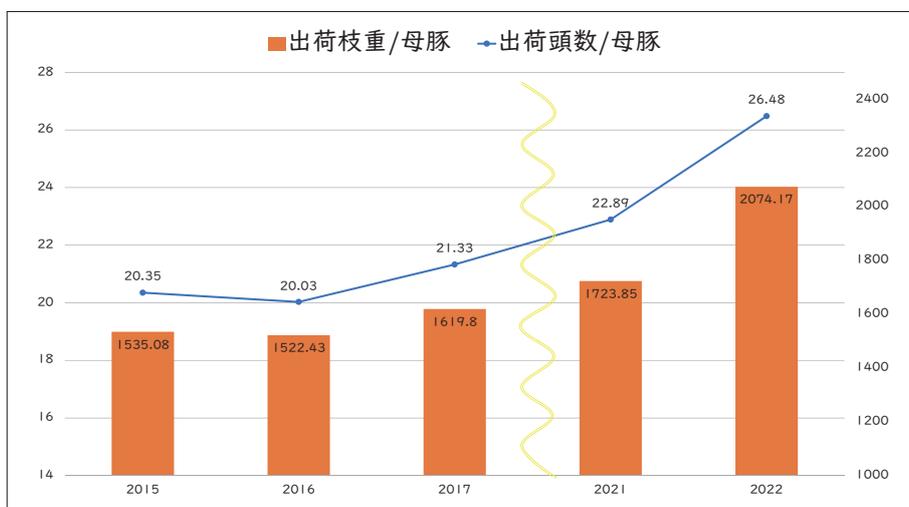
その後、二度と同じことが起こらないようにと団地が一致団結して改革に臨みました。防護柵の設置や市内入口、団地入口、農場入口の3段階での車両ゲートの設置や出荷デポ、斃獣回収場所など、バイオセキュリティの徹底が実施されました。そして変更の最大の効果を発揮したのが、連続飼育からグループシステム2・10によるオールイン、オールアウトの実施とTopigsNorsvinとメンデルデュロックによる交配の変更がなれたことでした。平均総産子数は豚熱前13頭前後でしたが、ほぼ16頭というレベルになり、哺乳時までの事故が高かったことも改善され平均離乳頭数も10頭から13頭まで上昇されました。



株九郎兵衛 繁殖成績推移



株九郎兵衛 離乳後事故率と農場枝肉要求率



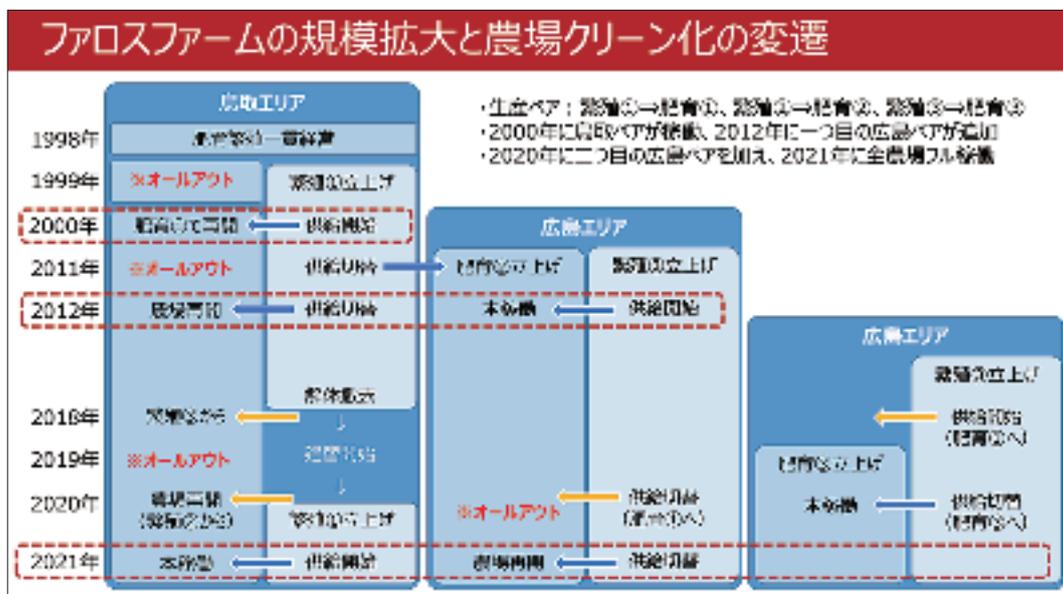
株九郎兵衛 1母豚当たりの出荷枝肉重量・頭数

1母豚当たりの平均出荷枝肉重量も1500kgが昨年は2000kgを超え、事故率も13～20%という高い推移だったものが5、6%に落ち着くなど目覚ましい進歩を紹介いただきました。苦しい全頭殺処分から再開により大勢の方々の支援に感謝を述べられ、成果として劇的な成績の改善が行われことによふれ「今養豚が楽しい」と笑顔で締めくくられました。

最後に、ファロスファーム(株)代表取締役社長、竹延哲治氏が「勝ち残る日本の養豚ビジネスモデル」と題して講演していただきました。「いつまでも日本人に日本の豚を食べていただくために」という理念



ファロスファーム(株) 竹延哲治社長



### 今後の日本の養豚モデル

- ①小規模（母豚500頭以下）一貫経営
  - ★農場を分離せず、意識の高い経営者が陣頭指揮するバイオセキュリティの整った農場
- ②繁殖（母豚1,000頭以上）と肥育の分離する一貫経営
  - ★繁殖農場で少なくともAPP、PRRSフリーを維持するバイオセキュリティの整った農場
- ③繁殖経営と肥育経営の分業
  - ★繁殖農場は疾病の侵入を阻止できる立地でAPP、PRRSフリーの産乳豚又はベビー豚を販売
  - ★肥育農場への1回の導入は最低500頭（3～4週に1回でも可）
  - ★肥育部門は繁殖部門の緻密な管理から脱却でき、複数農場の経営が可能（リキッドフィーディング、バイオガス発電へのチャレンジも可能）
  - ★繁殖と肥育は“取引”ではなく“取組み”であることが必要、強い信頼関係の構築が不可欠

 ファロスファーム(株)

のもと①欧米に負けない生産性、②“養豚を科学する”“病気と闘わない養豚”、③人財教育の大切にされている3つのことを紹介いただきました。

年間30万頭出荷、農場要求率2.52（繁殖飼料については候補豚初回交配までの飼料を除く）をはじめ、労働生産性、設備生産性、薬品費の少なさをもって卓越した数字を達成しているご紹介をいただきました。（有）サミットベテリナリーサービスでのベンチマーキング数値をもとに独自にシュミレーションされたコストは肉豚1頭あたり約1万円平均を下回っていることを公開していただきました。

そのコストの差の源泉となっているのが、育種改良と疾病コントロールによるものでした。1母豚当たり32.1頭離乳することが可能とするのはTopigs Norsvin社とPIC社が今も年々成績が向上している育種改良による徹底した遺伝子の研究成果とのことで、貴重な海外の育種データも公表いただきました。また疾病コントロールについては、一貫経営では一度病気を入れてしまうと簡単になくすことはできないことから、規模拡大時に肥育と繁殖を分離し、病気がなくなりクリーンになるまでオールアウトを実施し、それを繰り返すことで現在の状態までたどり着いた経緯を丁寧に説明いただきました。長い間空舎期間を設けるといことはその間売上が立たないことから入念な財務計画が必要だと強調されましたが、その期間をもってしても疾病をコントロールすることは大きな利益をもたらすとお話いただきました。

また、これらのことを実行していくためには他業種の給与と変わらない高水準での給与で有能な人財を集めて実行していくことの重要性も語られました。

講演の最後では今後の日本の養豚モデルを①小規模（500頭以下）は意識の高い経営者が陣頭指揮するバイオセキュリティの整った前提での「一貫経営」、②繁殖（母豚1000頭以上）と肥育の分離をする、繁殖農場では少なくともAPP・PRRSフリー維持を前提とした「一貫経営」、③疾病の侵入が阻止できる立地でのAPP・PRRSフリーの離乳豚・ベビー豚を販売する「繁殖経営」と1回の導入が最低500頭規模で、繁殖部門がない分複数農場も経営の可能性がある「肥育経営」を分業するという3つを示されて締めくくられました。

講演会終了後は同じ会場にて懇親会が引き続き開催され賑わいの中交流がなされ、セミナーは終了となりました。

日本養豚事業協同組合では本年2023年、3年ぶりの支部セミナーの開催も検討しております。厳しい現状の中、組合員の皆様が養豚経営を継続できるように今後も豚事協はセミナーをはじめとした教育事業にも力を入れていきますのでぜひともご参加をお願い致します。



多くのご参加で会場は満席



懇親会の様子

## 竹延哲治氏の講演を聴いて

日本養豚事業協同組合 前・理事長・やまびこ会会長 **稲吉 弘之**

業界の道しるべとなることを公言する竹延哲治氏の貴重な講演を聴いて、強い衝撃を受けた人は私だけではなかっただろうと思う。

我が家も私と息子夫婦で聴かせて頂いた。息子曰く「竹延さんは事業家、自分たちは農家、立場が違うので真似のできないことは多いが事業に対する考え方など大いに参考になった」との事。嫁の幹子は竹延さんのオーラは凄い…是非講演を聴きたいと、子供の塾の送り迎えを義母に頼み東京に赴いた。感想は「病氣と闘わないで済む養豚の大切さを痛感した。竹延さんでさえあれだけの努力をしているのだから、私たちはもっと努力しなければならない。一度聴いただけでは理解できないことが多いので何度も聞きたい」ということだった。

松村理事長曰く「竹延君が10人いると困るけど、一人だから大丈夫」との事。確かに10人だと業界シェアは15%になる。影響力は大変なことになる。70人いれば日本の養豚家全員3,500人はいらなくなる。

そんな凄い経営者が自社の経営のノウハウを、惜しげもなく披露してくれるのは有難いことだと思う。

15年務めた理事長職最後の仕事として、2014年（平成26年）将来の業界を担える優秀なリーダー・経営者の育成を目的として「豚事協若手経営者育成塾」を、竹延さん、クレストグループの栗木貢男さん、若手獣医師の石関さん、アニマル・メディア社の岩田さんに相談役として参加していただき立ち上げた。

第1期生として、全国から優秀な若手経営者30名が集った。合計8回、各2日間の日程で経営からリスク管理、リーダーコミュニケーション、飼料栄養、財務管理など多岐にわたる項目につき、業界の内外から各分野で一流、プロの講師を招いての講義と、グループディスカッションからなるカリキュラムを組み、2016年8月2年間にわたる学びを終えた。

初回にはホリエモンこと堀江貴文氏を、最終回には伊藤忠商事(株)の社長・会長として敏腕を奮い、民間から初の中国大使にも抜擢された丹羽宇一郎氏を

ゲストスピーカーに招いたほか、業界内からは(株)林牧場の林邦雄氏、竹延哲治氏、クレストグループの栗木鋭三、貢男氏にも講義をしていただき、またグループ学習におけるコメンテーターとして多くの有益な助言をいただいた。

第2期も同じく2年のカリキュラムで実施した。それらの塾生の中から大きく経営を伸ばした若者、規模拡大は出来なかったが経営の健全化を果たした若者が、全国各地で活躍しているのを目のあたりにして学ぶことの大切さを実感している。

2014年TopigsNorsvinの導入によって(有)マルミファームは稼働母豚1頭当たり年間30頭の離乳を達成した。TopigsNorsvinの普及も兼ねてコロナ感染騒動までの5年間、稲吉克仁が年5～10回全国各地で講演した。当初は30頭離乳を数字のマジックだと言って中々信じない養豚家もいたが、今や当たり前の数字として多くの養豚家が目指すようになった。ここ数年、成績優良農場では30頭出荷を達成する農場がいくつも出て来ている。この勢いは今後も続くだろう。

今回同セミナーに於いてやまびこ会会員で(株)九郎兵衛後継者の高橋将司君が、体験発表をする事もあるがやまびこ会から15名が参加した。

やまびこ会は後継者が多く、会員24農場のうち青年部として19名の部員がいる。松井青年部長の下で初代会員の孫世代までが、後継者としてコロナ下にもかかわらず工夫をしながら活発に活動している。

彼らに経営者の視点からも勉強して貰いたいと思い、「養豚経営儲けのポイント」と題して、弊社の最近5年間の決算書もオープンにして、2月17日2時間講義をする事にした。

学ぶ姿勢はとても大切であるが、先人として伝えたい、育てたい、という姿勢どちらも大切だと思う今日この頃である。

# PRRS陰性化対策とその後

FAITES 教育養豚戦略コンサルタント  
渡部 佑悟

## ・はじめに

みなさんこんにちは、教育養豚戦略コンサルタントの渡部佑悟です。今回は、私がアメリカ研修期間中に経験した、PRRS陰性化対策とその後に関してまとめる機会を頂きました。農場の具体的な成績に関しては詳細に記述できませんが、PRRS対策を検討する一助になれば幸いです。よろしくお願いいたします。

## ・研修農場におけるPRRS発生と陰性化に向けた対策

農場は母豚6,000頭を飼育する繁殖農場です。PRRSウイルスの侵入経路は、外来修理業者と推察されています。PRRSウイルスが定期的に行われている睾丸液検査によって検出されたのち、受胎率の低下、後期流産の増加などの典型的なPRRS症状が現れ、繁殖成績が約30%低下しました。侵入当初は農場内種豚

に対して、PRRS不活化オーダーメイドワクチンを1ヶ月間隔で2回接種し、分娩予定1か月前の母豚に対しても同ワクチンを接種することによって鎮静化を目指しました。(図1)しかしこれらの対策にも関わらず繁殖成績が低下した状態が継続していることや、出荷先の離乳後事故率も高いことから、農場はPRRSをコントロールして沈静化するという方針から、陰性化を目指すという方針に切り替えました。

## ・PRRS陰性化に向けたデポピュレーションと農場再建計画

PRRS陰性化に向けて、農場(経営陣)と管理獣医チームはすぐに対応をまとめました。陰性化に向けたタイムラインは以下の通りです。

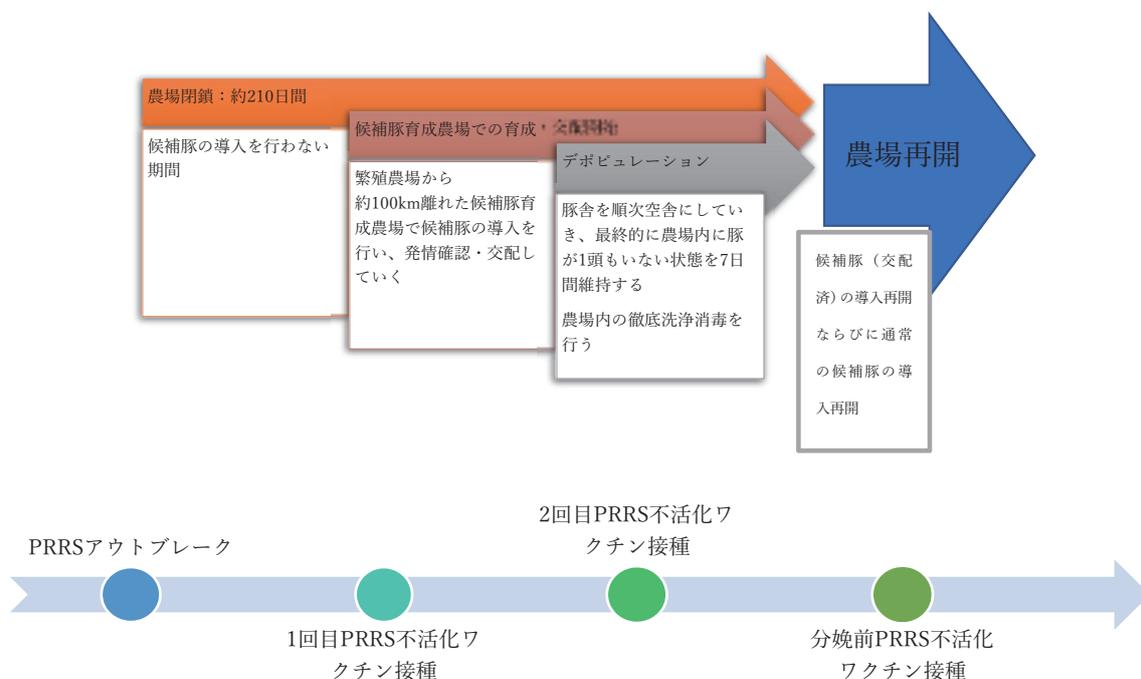


図1: PRRS発症直後のPRRSコントロール方法(生産成績が改善しなかったために方針転換)

### ① デポピュレーションと農場内の洗浄と消毒

デポピュレーションとは、農場内施設を空舎にすることです。農場では、候補豚の導入を中止した後、分娩が終わった母豚を順次廃豚または他農場へ移動しました。その結果、(農場内) 候補豚舎→交配豚舎→妊娠豚舎→分娩舎の順にデポピュレーションが進み、順次洗浄と消毒作業に取り掛かりました。農場内に豚が存在しない空舎期間としては1週間を設定し、その間に豚舎内の徹底洗浄と消毒を再徹底し、導入前に拭き取り検査でPRRS-PCR陰性を確認しました。



### ② 候補豚育成農場での育成と交配

繁殖農場から100km程度離れた場所に候補豚の育成農場があります。候補豚育成農場は肥育豚舎のような構造で、候補豚を群飼育しています。そこでは240日齢付近で雄豚を当てながら発情確認と交配を行い、引き続き妊娠期間は候補豚育成農場で飼育しま

した。空舎期間を終えた繁殖農場へ移動する際には、ロブ検査によってPRRS-PCR陰性であることを確認しました。

### ③ バイオセキュリティの改善

PRRSウイルスの農場への侵入を一度許してしまったことから、バイオセキュリティの再検討を行いました。ウイルスの農場への進入経路としては外来者による持ち込みを想定していたため、農場内に持ち込む物品は全て消毒液を吹きかけてから持ち込むことにした他、農場に入場するすべての人がブーツカバーを装着することを徹底しました。(以下写真参考)



### ・再開後の農場成績改善

前述した1週間の空舎期間後、交配済の候補豚が繁殖農場に導入されました。その後2週間で分娩が再開し、約3週間後に離乳豚の出荷が再開されました。農場再開後、PRRSウイルスの再侵入は受けてい

ません。今回のデポピュレーションにより、農場はおよそ6週間生産が止まりましたが、PRRS陰性化と成績改善を達成しました。PRRSウイルスの侵入により農場の生産成績は基準よりも30%下落しましたが、農場再開後、基準の生産成績よりも10%改善しました。農場は現在においてもPRRSウイルスの侵入を許しておらず、農場は高い生産性を維持しています。この改善によって、農場はPRRSウイルス侵入による損害を補填できる見込みです。農場の経営責任者は今回の成績改善を踏まえて、他の繁殖農場においても同様の手法を用いてPRRS陰性化を目指しています。

FAITES 教育養豚戦略コンサルタント  
HP: <https://www.faites.jp>

## ・おわりに

今回、研修農場でのPRRS陰性化対策とその後について報告しました。アメリカでの疾病対策の基本は、「それ（対策）によって儲かるのか？」だと感じます。将来的に儲かる算段ができれば実行し、その途中でエラーが起きたとしても、「しょうがないね」として軌道修正します。逆にエラーが解決できず、将来的に収益の改善が見込めない場合は早々に撤退します。どのような場合でもポジティブに捉えます。このような臨機応変で前向きな姿勢が、アメリカの養豚業を効率的で効果的なものにしていました。私も今後のコンサルティングでは、疾病の改善に留まらず、高い収益性を基にした将来展望を描けるコンサルティングを行っていこうと思います。

## 第2回若者が夢を語る会開催お知らせ

昨年7月1日、2日に第1回を開催し会場に収まらないほどの応募があった若者が夢を語る会（以後、若夢会）の第2回が開催決定いたしました。

前回同様、座長は山本副理事長のもと豚事協会員だけに限定せず養豚農家であれば40代までの方ならば、だれでも参加できるオープンな場として開催いたします。前回より会場を大きくして行いますので、前回参加の方も是非ともご参加ください。

記

日時：夏開催予定

場所：東京開催予定

会費：勉強会参加は無料、懇親会参加は1人5,000円

申込：4月1日より豚事協HPにて申込用紙、申込フォーム公開予定

（組合員の皆様には4月1日にご案内を発送予定）

以上

## 連載 若夢会「Boys , be ambitious!」

### 若夢会へ参加して



ハシエダ養豚 小林 香奈

岐阜県ハシエダ養豚の繁殖農場に従事しております小林香奈と申します。岐阜県に引っ越す来までは他県の養豚場に勤めておりました。縁もゆかりもなかった岐阜県ですが日本の真ん中ということでも住みやすく何の違和感もなく過ごしております。恥ずかしながら豚事協の存在を知ったのはハシエダ養豚に入社後のこととなります。

入社後、社長や会長の想いを感じ取る中でこの業界への想いや考え方、視野が随分と変わったと感じています。

今もそうではありますが、それまではとんでもなくミクロの世界で仕事をしていたように思います。

そんな無知な中私は若夢会へ参加させていただきました。

講師の方々、参加されている方々の話を聞き、皆さん様々な経験を経て進みそれぞれの展望を思い描いておられるのだなと思いました。最後にそれぞれ

の夢を語るシーンではここに向かうという心意気と浪漫を感じました。

豚事協を運営されている皆様の想いも感じ取るなかで、この業界の先頭で今までを築き上げてきた方々がいるからこそその今がある事も、弊社の会長や社長が築いてきたものの大きさや労力、時間、想いも、含め改めて感謝しかないなと思いました。

これらの経験を経て思うのは同じ環境に居続ける事は自分の視野が狭くなる事、そしてそれにすら気付けなくなるという事でした。農場内では限界がある事、慣れてしまう事を避けるために外部の刺激を受ける機会はとても重要だと気付かされる日々です。

そんな中今は漠然とですが何か1つでもこの業界で自分に出来る事はないものだろうか考える事が増えてきました。

そう思えるようになったのは今農場で共に頑張っているメンバーと関わる事で得たことでもあり、今





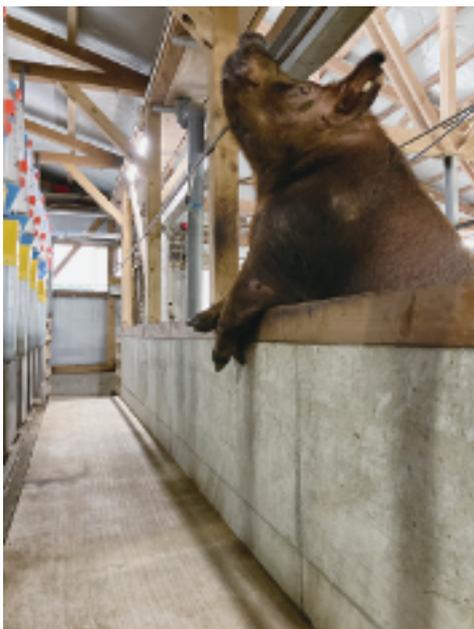
後この業界を担うであろう頑張ろうとする若い子たちの為に今の自分出来る事は何かあるだろうか？と思えるようになったからです。

ハシエダ養豚は今後も規模は大きくなり続けると聞いています。

人材、人手不足がまことしやかに囁かれている中ではありますが、こんな魅力的な仕事は他にないと私は心から思っているのでその魅力を伝えられる人間に、農場になれるように尽力していくつもりです。

例えどの様な規模になってもそこは雑になってはいけなし忘れてはいけなしと改めて思います。

言うのも思うのも簡単ですし、綺麗事のように聞こえます、時間もかかる事と思いますが、変化させなければ数年後に大きな差になることと思います。



今後、成長し続けられる農場として存在出来るように今の自分に出来る精一杯を模索し続けていきます。

このような場を設けていただき、参加出来たこと感謝しております。



## 事務局からのお知らせ

### 豚事協第13回女性部主催ウェブセミナーのご案内

【開催日時】 2023年3月8日（水）午後2時～午後4時頃

#### 「女性の活躍が地域の未来を変える」



株式会社ビストロくるるん 代表取締役  
松藤 富士子 様による講演会

令和2年 日本農業賞「食の架け橋」大賞および農林水産大臣賞  
 令和2年 農林水産祭「女性活躍の部」内閣総理大臣賞  
 令和3年 秋の叙勲褒章 黄綬褒章

##### 松藤様への質問コーナー

女性が組織を作る時に壁になったこと。女性が働きやすい職場環境にするには？等、是非前もってメールにてご質問も頂けたらと存じます。

#### 「私たちにもできる資産形成」

・資産形成って何だろう？ ・インフレ、円安 改めて考える資産形成



Y's Asset Design ワイズ・アセット・デザイン  
代表 山口 曜一郎 様による講演会

慶應義塾大学経済学部卒、ロンドン大学修士課程（金融学）修了。  
 元三井住友銀行チーフエコノミスト営業セールストレーダーなどを  
 経たあと、20年にわたって経済・金融市場の分析業務に従事。  
 スイス、米国、英国、シンガポールなど海外駐在経験が豊富。  
 帰国後、個人向け資産形成業務の企画・運営に携わる。

##### 山口様への質問コーナー

投資（積み立て投資）はいくらくらいからしたら良い？いつ始めたら良い？等、是非前もってメールにてご質問も頂けたらと存じます。

#### 【参加費】 無料（会員・非会員問わず）

組合員以外の方も参加可能です。是非ご友人の方にもご案内下さい。

参加申し込み方法： Zoom を利用して行います。※Zoom のインストールを事前  
 お願い致します。参加ご希望の方は [onodera@tonjikyō.or.jp](mailto:onodera@tonjikyō.or.jp) へセミナー参加希望。  
 その際、法人名とお名前（法人名がない方は、お名前のみで可）もご記入下さい。  
 後程、豚事協事務局から Zoom ミーティング ID 等のメールを送らせて頂きます。

申し込み締め切り:3月6日（月）午後1時 担当 小野寺 (070-4122-8512)

# 賛助会員のご紹介

## 江南コンクリート工業株式会社

### 会社概要

設立/1960年10月27日

資本金/6280万円

代表者/代表取締役社長 富永典夫

所在地/483-8107 愛知県江南市石枕町白山53番地

事業内容: 畜産関連コンクリート製品及び公共工事用コンクリート製品の製造販売 コンクリート用コーティング剤等の企画販売

E-mail/info@konanck.com

URL/https://konanck.com/

弊社では創業以来コンクリート2次製品の製造販売を60有余年に渡り行ってまいりました。公共工事で使用するものを中心に、近年では畜産関連製品の製造に力を入れております。

### コンクリートすのこ

一般的な流し込み製法で製造し、表面に適度なザラつきを持たせて、逆に側面はザラつきのない製品に仕上げています。製品ごとに強度計算を行い十分な強度有していることを確認していますので、安心してご使用いただけます。サイズも豊富に取り揃えておりますが、カタログにないものも製造可能ですのでお問い合わせください。

### KNプロテクト

コンクリートすのこは、飼料や糞尿に含まれる酸よりコンクリートが浸食されるという問題があります。製品寿命を縮める酸による浸食を何とかしてほしいというお客様からの声で誕生したのが、耐酸性コーティング剤のKNプロテクトです。使い方は簡単で2液の材料を拡販しローラー・刷毛等で塗布するだけなので、畜舎内のさまざまな場所でご使用いただけます。勿論ご使用中のすのこにもご利用いただけます。下記のQRコードから施工の様子をYouTubeでご確認いただけます。



KNプロテクトを施工したすのこ



江南コンクリートチャンネル

## 富士フィルムVETシステムズ株式会社

### 会社概要

設立/2019年7月1日

資本金/1200万円

代表者/代表取締役社長 藤原清隆

所在地/〒181-0013 東京都三鷹市下連雀三丁目35番1号  
ネオ・シティ三鷹12階

事業内容: 動物用検体検査機器、動物用画像検査機器、検体検査サービス、検査試薬販売

URL/https://www.fujifilm.com/ffvs

弊社は動物臨床検査会社として、富士フィルムグループが有する、様々なサービス・製品と受託検査事業により、動物の健康維持・管理をトータルコーディネートしてサポートし、コンパニオンアニマルから大型動物に至るまで、すべての動物の健康とこれに携わる人々の豊かな生活に貢献して参ります。

この度、養豚事業への参画に伴い、養豚事業者様にご活用いただくべく、エコーを用いた妊娠鑑定に対し、小型ワイヤレスエコー「iViz air V」を発売いたしました。

### iViz air Vの製品特長

- ① ワイヤレスエコーのため、検査に入るまでがスムーズ
- ② 小型でありながらX線画像で培った画像処理技術を応用しているため**高画質**を実現
- ③ バッテリーは取外し不要で、**3時間以上**動作可能<sup>(※1)</sup>
- ④ 180秒以上の動画、500枚以上の画像を**保存**
- ⑤ カバーを被せて操作でき、**感染対策**にも配慮  
※1 新品のバッテリー、常温、デフォルト設定、バッテリーフル充電状態の場合

導入されている養豚農家様の中には、高画質であるため既に種付けのタイミングを変更した農家様も出て参りました。デモ機貸出しも行っていますので、ご検討の際は事務局までお問合せ願います。

組合員の皆様と共に素晴らしい未来を作っていくためこれからも精進していきますので、宜しくお願い致します。



「感染リスクにも配慮」の写真



「21日目受胎」右側の写真

## 豚事協共同購入資材のご案内

### ・Q-Bプラマーズスターターセット

棒状のロッド（1.2m）に各種ヘッドを取りつけてマスから管内に挿入し、手でロッドを回転させて管内のつまりや汚れを清掃します。大きな機材を持ち運びにくい場所でも作業が可能です。

#### セット内容

- Q-Bロッド（1.2m）…6本
- Q-Bコーク・スクリューφ100mm…1本
- Q-Bバー・ターニング・ハンドル…1本
- Q-Bテーパー・コーク・スクリューφ50mm…1本
- Q-Bクイックカブラ用キーレンチ…2本
- 収納袋…1個
- 工具箱、プラスチックハンマー、潤滑油…各1個
- 本体価格 豚事協特別価格 104,500円（税込・送料別）
- 発送元 株式会社カンツール

Q-Bロッド（1.2m）



Q-Bコーク・スクリューφ100mm



Q-Bテーパー・コーク・スクリューφ50mm



収納袋



Q-Bバー・ターニング・ハンドル



Q-Bクイックカブラ用  
キーレンチ



工具箱

## 豚事協の第23期行事

### 理事会

- 第 1 1 1 回 ..... 令和 4 年 6 月 22 日（水）（東京）
- 第 1 1 2 回 ..... 令和 4 年 10 月 13 日（木）（東京）
- 第 1 1 3 回 ..... 令和 4 年 12 月 8 日（木）（東京）
- 第 1 1 4 回 ..... 令和 5 年 3 月 16 日（木）（東京）

### 豚事協セミナー

- ウェビナー ..... 令和 4 年 6 月 3 日（金）オンライン形式
- セミナー ..... 令和 5 年 2 月 8 日（水）（東京）

### 女性部

- 第13回女性部セミナー ..... 令和 5 年 3 月 8 日（水）オンライン形式（参加受付中）

### その他

- 海外視察研修 ..... 中止

※青字は令和 5 年 3 月 1 日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性がありますこと、ご了承下さい。

### 編集後記

\*\*\*

サウナブーム、皆様は聞いたことがあるでしょうか？最近テレビやネットの特集や記事の掲載、雑誌や新聞で経済効果や町おこしとなっているなど話題が事欠きません。企業内では「サウナ部」という有志の集まりを作り、熱心な企業は福利厚生としてサウナ施設を併設するなど加熱しております。山梨県では人口 10 万人あたりのサウナ施設数が最も多いことから、県が補助事業をおこし、キャンプ場でのサウナ設置支援や、男女が一緒に利用しやすいよう公衆浴場法施行条例を改正しているほどです。また、九州では大分県豊後大野市が「サウナのまち」として宣言し、温泉施設が少なくないサウナ施設があるとPRして観光客を誘致する「サ旅」なるものまでできています。

恥ずかしながら、私も大のサウナファンです。サウナが好きな人を通称「サウナー」といいますが、まさに私もその一員で遠方までサウナのために旅行することも多くあります。一押しは熊本県「湯らっくす」です。過去は一般的な温浴施設でしたが、熊本の震災で建物が倒壊しサウナが大好きなオーナーがサウナに特化した施設にリニューアルし、瞬く間に「西の聖地」として全国のサウナファンに愛されています。（ちなみに、聖地と崇められているのは静岡県サウナ好きです。あの「飲める」水風呂は衝撃です）

サウナ業界のように養豚業界も熱くなっていくと信じてやみません。サウナでは、入浴して気持ちよくなった状態を「ととのった」とフレーズで表現しています。養豚業界も適正な価格転嫁が可能となり生産費に合わせて変動する豚枝価格になったり、ウクライナ戦争が収まり国際的な穀物供給不安が解消して相場が安定したり、為替も乱高下せず数年前の安定値なる、そんな状況に一日も早く「ととのう」ことを日々祈っております。（加）

